

## 行動経済学・実験経済学による人間行動の解明

後藤 晶 経営情報学部 経営情報学科 専任講師

多摩大学教員サイト URL

<https://www.tama.ac.jp/guide/teacher/goto.html>

### キーワード

行動経済学, 実験経済学, 実験社会科学, 計算社会科学, オンライン実験, クラウドソーシング

### 概要

本研究室は行動経済学・実験経済学に関わる研究を展開している。短期的なテーマとして人間の協力行動の動機と社会のあり方を考える「協力行動に支えられる社会」、他者とのオンライン上のコミュニケーションに関わる「情報社会における監視と信頼」、現代社会の消費のあり方に関わる「オンライン上における消費者行動の解明」、「オンライン上におけるゲーム実験環境の構築」「行動経済学の実社会における応用」等を中心としている。さらに、中長期的なテーマとして「協力行動・利他的行動の促進／抑制要因の解明と制度設計」を掲げている。人口減少・少子高齢化が続く我が国では、いわゆる経済学の論理では持続可能な地域社会、そして持続可能な日本の構築は困難である。今後の日本に求められる一つの方向性は、利益を追求し奪い合うゼロサムゲームのパラダイムから離れて、他の価値観に基づいた持続可能な制度設計にある。行動経済学の観点からは他者考慮選好および幸福の重要性があげられる。他者考慮選好とは自身の効用は自身の利益だけでなく、他者の利益も考慮して決まるというものである。他者に何が含まれるかは課題であるが、コミュニケーションの中で幸福が創発され、幸福という価値観に基づいた社会の可能性は検討する価値がある。本研究室では、協力と幸福に基づいた社会の追求に向けて研究を展開する。

### 利用・用途

#### 応用分野

行動経済学は広く人間行動や消費行動に関わる学問領域であるために、政策やマーケティングをはじめとした様々な分野への応用が可能である。その他、実験的手法を中心としているためにランダム化比較試験等の実験・解析手法に関わる知見の提供も可能である。

現在・過去の実社会への応用例として、国内大手広告制作事業会社、ならびに国内大手のインターネットサービス事業者と行動経済学の知見を用いた共同研究を展開している。

### 関連論文・著書

1. 後藤晶, 本田正美 (掲載決定)「監視カメラの社会的許容度に関する一考察」 社会情報学会誌 (社会情報学会)
2. 後藤晶, (2017)「利他性・信頼の社会経済的要因：実験経済学的妥当性を担保したアンケート「実験」を目指して」 行動経済学第9巻 (行動経済学会) pp. 114-117
3. 後藤晶, (2016)「プレミアム商品券の経済行動：購入判断に対する社会経済的要因に着目して」 行動経済学第8巻 (行動経済学会) pp. 86-89
4. 後藤晶, (2015)「損失は協力行動を促進するか：カタストロフゲームによる実験的アプローチ」 社会情報学第4巻1号 (社会情報学会) pp. 1-16

(他 21 編)

